

《2012年11月例会報告》

【日 時】2012年11月22日（金）19:00～20:55（その後「ルン」～2:00頃…帰れない…）

【会 場】筑波大学附属高校 3F 会議室（東京都文京区大塚 1-9-1）

【テーマ】FIFAフットサルワールドカップ2012報告会

【演 者】徳田仁（(株)セリエ）

【参加者（会員）11名】猪狩翔（アスレティックトレーナー／鍼灸師）、屋繁男（関大サッカー部後援会）、笠野英弘（筑波大学）、金子正彦（会社員）、白髭隆幸（日本スポーツプレス協会）、竹内傑（早稲田中高教員）、徳田仁（(株)セリエ）、中川英治（クーバー・コーチング・ジャパン）、中塚義実（筑波大学附属高校）、藤田直樹（ビバ！サッカー研究会）、森政憲（学校教員）

【参加者（未会員）3名】国島栄市（ビバ！サッカー研究会）、松戸浩輔（アクサ生命）、★続木敏之（学校教員）

【ルンからの参加】小池靖（最初から）、浜村真也（深夜から）

注1) ★は初参加のため参加費無料

注2) 参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

【報告書作成者】竹内傑・森政憲

FIFA フットサルワールドカップ 2012 報告会

徳田 仁（(株)セリエ）

<目 次>

- I. プレゼンテーション①：徳田仁
 - 1. フットサル・ワールドカップの歴史
 - 2. 日本代表のアジア予選
 - 3. 日本代表：予選と本戦でのメンバーの違い
 - 4. 開催国「タイ王国」と会場の様子
- II. ディスカッション①
- III. プレゼンテーション②：大会の様子
- IV. ディスカッション①

I. プレゼンテーション①

本日報告をさせていただきます、株式会社セリエ代表取締役の徳田と申します。普段は、サッカーやフットサルのイベント、代表やヨーロッパサッカーのツアーを企画しています。最近、フットサル W 杯、日本代表 W 杯予選オマーン戦、U-19 アジア選手権が同時期に重なっていたため、それらを行ったり来たりしていました。

フットサル W 杯では、最初の三試合と準決勝、決勝を現地で観戦しました。途中の試合については他の社員が撮った写真使いお話ししたいと思います。よろしくお願いします。

今回のフットサル W 杯で特徴的な出来事は、①日本代表がベスト 16 に勝ち進んだこと。②カズの参加により新聞の一面に記事が出たこと。③決勝やタイ代表の試合で使用予定だったメイン会場のバンコクフットサルアリーナが最後まで完成しなかったことの三点です。

1. フットサル・ワールドカップの歴史

では、フットサル W 杯の歴史についておさらいしたいと思います。フットサルは 1994 年にルールや名称を統一したところからスタートしています。それ以前の 2 大会は 5 人制室内サッカー選手権として開催されています。

第 1 回はオランダ大会で参加国は 16 カ国でした。オランダで開催したせいか観衆も多かったようです。この時、日本は招待チームで出場しています。

第 2 回は 1992 年に香港で開催されました。日本は、東アジア予選で敗れ本大会には出場していません。優勝ブラジル、準優勝アメリカ、3 位スペイン、4 位イランという結果でした。最初の 2 大会はアメリカが強かったようです。理由は分かりません。以上「フットサル」になる前の 2 大会についてお話ししました。

1996 年が世界選手権の最初の年で、この時日本は予選で負けて本大会には出ていません。上位 4 チームはブラジル、スペイン、ロシア、ウクライナです。この大会から現在の大会の流れにつながっているのではないかと推測できます。観衆の数は 1 試合平均で 3,847 人。これは今見ると非常に多い数字であると感じます。

1995 年にフットサルが日本に上陸しているので、1996 年は日本でその言葉が少し認知されたという状況です。

2000 年になると草フットサルが盛んになり、人工芝でやるフットサルが普及し始めました。この年はじめて私もグアテマラで開催された大会を見に行きました。アジア枠は 3 つです。準決勝でイランに負け、さらに 3 位決定戦でタイに負けて本戦出場は成りませんでした。悔しい時代です。観衆は 1 試合 5,840 人で非常に多い数字です。

2004 年台湾大会はまだ世界選手権と呼ばれており、最後の世界選手権となりました。日本は予選を勝ち抜いて本戦に出場しています。この大会の観衆は若干人数が少ないのが気になります。

2007 年に F リーグが出来ているので、2008 年のブラジル大会は日本の関係者から注目を集めました。この時から参加チームが 20 となりました。ブラジル主催だけあって総観客数が 292,161 人。1 試合平均 5,217 人です。仮に日本で開催してもこれだけの観客は集まらないと思います。

そして、今年がタイの大会です。今回から出場チーム数は 24 チームになりました。昔のサッカーアメリカ W 杯の時までと同じやり方で、24 チームから 16 チームにするという方法で行いました。観客動員数はまだレポートが出ていないので分かりません。日本が初めてベスト 16 に進みました。

以上 7 回の W 杯の歴史です。

2. 日本代表のアジア予選

次に、今回のアジア予選で日本がどう戦ってきたかについてお話しします。今年の5月にUAEで行われました。グループA、B、C、D（各4チーム）計16チームから8チームのトーナメントになり、アジア枠は4+1（タイが開催国）で5つ出場できます。準々決勝に勝てば本大会へ行けるというレギュレーションです。

2会場同時進行で試合が行われました。タイ vs レバノン、イラン vs ウズベキスタン、日本 vs キルギス、クウェート vs オーストラリアで、最初の試合でタイがレバノンに勝ちました。開催国で負けても本大会には行けたわけですが、勝ってしまったわけです。そこで影響したのが日本 vs キルギスです。

この試合は、日本代表も緊張していて何も出来ない時間帯が続いたのですが、何とか1点とって「いけるぞ」という雰囲気になりました。ただ、展開次第では逆転されて負けてしまうのではないかと心配する内容でした。ところが、キルギスが残り2分ぐらいになって攻撃してこなくなりました。理由は、5つ目のチームを決めるルールが得失点差だったことだと思います。トーナメントなのにもかかわらず、得失点差なので前の試合で5-3と6-3だったキルギスにとって、「この試合0-1で負けても大丈夫だろう」という読みがあったようです。ところが同時進行で行われていたクウェート vs オーストラリアが80分同点で終わった（延長でオーストラリアが勝つ）ため、キルギスは結局予選リーグを抜けられなかったという結末になりました。

日本はこの試合に勝ち、勢いにのってめでたく優勝しました。結局、日本、タイ、イラン、オーストラリア、クウェートが本大会へ進出しました。この大会の観客数は9,077人。1試合当たりたったの284人でした。

本当は強いはずのイランがタイに負けました。この時のイランは、W杯の時のイランとは全く違う戦い方をしていました。出場を決めていたのでやる気がなかったのではないかと考えられます。そして勢いに乗ってタイが決勝まで勝ち進み、日本と対戦しました。その結果日本が勝ち、アジアチャンピオンとして本戦へ進むという結果でした。

3. 日本代表：予選と本戦でのメンバーの違い

次に予選と本戦の代表メンバーの違いを紹介します。予選時は浦安から4人、名古屋から4人、神戸・大阪・大分・町田から各1人、海外（星選手・カタール）から1人という14名のメンバーでした。

日本協会などとの絡みで、おそらくマスコミの認知度を上げようという趣旨でカズさんが入ってきました。また、もう一人、名古屋オーシャンズの森岡薫選手が入ってきました。以前から、なぜ森岡選手が選ばれないのかと不思議に思っていたのですが、実は森岡選手はペルー国籍で、2012年の8月2日に日本に帰化しています。ということで、本戦では選ばれましたが、予選では選ばれていませんでした。結果、滝田選手、仁部屋選手が落選しました。以上が予選から本戦へのメンバーの状況です。

本戦はどうかというと、浦安5、名古屋5、神戸1、大阪1、大分1、J2から1人という結果です。

4. 開催国「タイ王国」と会場の様子

ここまで過去のワールドカップの歴史と予選について見てきましたが、続いて本戦の話に移ります。

まずタイという国がどのようなところかお話します。正式名称はタイ王国です。面積が日本の1.4倍、人口6,550万人、王様がプミポンです。宗教は95%が仏教です。通貨単位はバーツで1バーツが約2.6円です。日本との時差がマイナス2時間、羽田から直行便で約6時間かかります。ビザはいりませんし、入国しやすいので高齢者や0歳児もツアーに参加していて、普段の他のツアーとは雰囲気が異なりました。気候は32~33℃（冬）です。朝夕は涼しいですが、日中は暑くて歩いての遠出は出来ません。したがって、三輪車に乗ったり、タクシーに乗ったりしていました。言語はタイ語で、英語はほとんど通じません。会話は筆記を使っていました。バンコクの人口は825万人。コラート（日本の1試合目、2試合目）は150万人です。コラートの位置はバンコクから260キロです。高速道路で行けませんが、一部下道で街灯がなかったり、でこぼこ道だったりします。夜走ると怖いようなところ

ろをバスの運転手は 120 キロぐらいで走行していました。1 試合目、2 試合目は 4 時間かけていく道のりを 2 往復しました。

私たちが泊っていたのは駅の近くです。このニビブットスタジアムから近いところにありました。フアマークという空港の近くのスタジアムまではすごく混む道があるので行くのに約 30~60 分かかりました。バンコクフットサルアリーナは遠いのですが、道が混まないため 60 分ぐらいで行けました。これがバンコクの中の三会場の位置関係です。

Q.

去年洪水になっていたのはどのあたりですか？

A.

全域です。工事が遅れた理由は洪水だということになっているのですが、実はタイの人に聞くと資材を輸入する時の賄賂が払われているかということが関係しているそうです。

各会場の収容人数と場内地図についてです。一番大きいバンコクフットサルアリーナで 12,000 人、インドアスタジアム・フアマークが 6,000 人、ニビブットが 5,000 人、コラートチャッチャイホール（日本の 1 回戦、2 回戦で使用）が 5,000 人でした。お見せしている会場図はオフィシャルな画像なのですが、よく見てもらうと分かるように、フットサルコートがサッカー場やバスケットコートになっていたりします。1 枚だけフットサルコートが描かれていて、名前もフットサルアリーナとなっていますが、この後、スタジアムがどのように使われるのか興味があるところです。以上 4 会場についてでした。

次に今回のチケット代についてお話します。グループリーグではカテゴリーⅠが 300 バーツ、カテゴリーⅡが 200 バーツ、カテゴリーⅢが 100 バーツです。つまり一番安い席が 300 円弱、高い席が 400 円弱ということになります。次にラウンド 16 以降の料金です。準決勝、三決、決勝の一番高い席が 900 バーツですから 2,000 円台です。さすがにタイの試合と、決勝だけは完売したようです。食事付きの席は、2000 バーツ~3000 バーツと非常に高い値段設定になっています。また、今回のチケットは紙ではなくカード式でとても数えづらかったです。

開幕直前で 4 試合がフアマーク会場に変わりましたが、チケットを発券する前に変更できました。ところが、準々決勝、準決勝、決勝で使うはずだった 6 試合も出来ないということになりました。11 月 7 日（グループリーグ 3 試合目）に出来ないということを決断し、ニビブット、フアマークへ変更になりました。2 回変更されています。不思議なのは、バンコク・フットサルアリーナは 12,000 人収容なのに対し、フアマークは 6000 人の収容人数だという点です。「チケットが全部売れていたらどうしたのか」という疑問がわきます。変更の案内が行っている人と行っていない人がいて、当日混乱するのではないかと思いました。通知の方法は、メールで、タイ語、英語で来ました。11 月の 9 日から 13 日までの間に引き換えに来て下さいというメールでした。ところがチケットはすでに受取済みなので、タイを離れてしまっている人や他人に譲ったヒトもいるだろうと思い、「これは大きな問題になるな」と予測しましたが、実際はあまり売れていなかったせいもあってそこまで大きな問題とはなりません。FIFA の大会でこのような事態はまずおきません。主催者のいい加減さが分かると思います。FIFA の決定についてその判断が遅かったのではないかと考えることもできます。

ということで実際にスタジアムを見に行ってきました。60 分程タクシーに乗って現地近くまで行くとバナーが貼ってあり、やる気はあったのだなと感じました。フェンスに囲まれた向こう側に見えてきたわけですが、飾り付けなんかはしてありました。近くまで行くと警備員がいて、写真を撮ってはいけないなどいろいろな言われましたが、お構いなしにぐるぐる回って見ていました。そして中にも

入ってみました。下の芝は今張ったばかりという感じでした。細かい部分も出来ていませんでした。一応、椅子等の準備は出来ていましたが、階段の一部に鉄のさびが付着していたり、基礎しかできていない建築物があったりしました。一番びっくりしたことは、すぐ横に民家があって、位置的におそらく退去してもらわなければならない場所にまだ人が生活していたことでした。北京オリンピックの時と状況が似ていて、外にはバラックというか「明日のジョー」に出てきそうな家がいっぱいあって一生懸命壊しているような状態だったので、FIFAの役員が見たら「出来ない」と判断するのも納得できるなといった感じでした。私が見ても「出来ないな」と感じました。また、後ろから入ってみるとまだ配線工事が行われていたのでやはり素人目にも出来る状態じゃないなとはっきり分かりました。

隣に資料館のようなものがありました。何に使おうとしたものなのかは分かりませんでした。住民がまだ住んでいて完成すれば追い出されてしまうのだろうかと思いました。

ここから先は時系列で大会の内容についてお話しいたします。

II. ディスカッション①

中塚：ここまでのところで質問を受け付けましょう。

Aさん：韓国はフットサルをやっていないのですか？

徳田：韓国はアジア予選には参加していますが、グループCの四位でした。

Aさん：弱いのか？

徳田：以前、日韓の話題の時にもお話ししましたが、韓国はKFAが下の選手を見ていないので、大会に参加した選手はサッカーの上手い大学生でした。フットサルになっていませんでした。しかし、連盟ができたので何年かしたら日本に追い付いてくるのではないかと考えています。日本のFリーグの真似をしてFKリーグというのが出来ました。

Bさん：アリーナが出来なかった問題はすごいなと思います。大会が始まって一応最後までつくろうとはしていたのですか？

徳田：僕が行ったのは決勝の前の日ですが…

Bさん：その時にはあきらめていたのですか？

徳田：あきらめているというか…

Cさん：働いている人たちも働いていないし。だけどグループリーグの時なんかは「せっせ、せっせ」とやったのでしょうか？

徳田：たぶんやったのでしょね。グループリーグ準々決勝と11月16日からは使うということで聞いていましたし、そのつもりでこちらも準備していました。そしたらグループリーグの最終日ぐらいい出来ないということが突然決まりました。HPに出ている理由は、「セキュリティ上の問題で非常口がないから」とか書いてありましたが、実際は非常口がないどころの騒ぎではなく何も出来

ていないというのが現状でした。タイの人に聞くと「まあそうだろうな」とか言っていましたが、日本では考えられないし、FIFAの大会では異例だと思います。

Dさん：チケット問題についてですが、僕の友達の中には入れました。入れましたが、入ったら席がありませんでした。そしてどうなったかというチケットを取り上げられてしまいました。会場で見ることが出来ますが一階のメインアリーナには入れないという事態になったそうです。結局安い席で適当に見たそうです。

徳田：引き換えなかったのではないですか？

Dさん：そうかもしれないです。とにかく何かが違うということで入れてもらえなかったようです。またタイ語しかしゃべらないのでよくわからないままだったようです。これは多分一人や二人の事例ではないと思います。もしかしたらチケットが重複していたのかもしれない。

徳田：警備員はなんで分かったのですかね？

Dさん：数字が違っていたみたいですね。とにかくむちゃくちゃな対応でした。席は満席なのに外にはダフ屋もいてかなり謎な大会ではありました。

徳田：当日は30枚だけ当日券を売りました。うちの社員が当日引き換えのチケットがあったためレシートを持って行ったところ当日券があったと言っていました。

Dさん：友達もインターネットで券を買ったのですが、まず引換券が送られてきました。そのときすでにカードからチケット代が引き落とされていました。今回13日までに引き換えに来いというのは、引き換えに行けない人にとってはどうすれば良かったのか。泣き寝入りなのか、払い戻しなのか、何もアナウンスがありませんでした。

徳田：さっきお見せしたメールだけですよ。あとはいっさい連絡が来ていません。

Dさん：カードから引き落としをしたのに詐欺ではないかという感じを受けます。そういう意味ではこれから問題になるような気がします。

徳田：チケット代が安いだけ面倒だからなにも言わない人もいるかもしれませんね。

Dさん：しかも今回ベスト4に残った国に英語圏は含まれていません。にもかかわらずタイ語と英語だけで案内のメールを出したので各国もめている人は少なからずいると思います。

Ⅲ. プレゼンテーション②

では、スライドショーに戻りたいと思います。

バンコク到着からお話しします。案内が見つらくタイらしいなと思いました。空港自体は新しく、6年ぐらいしか経っていません。空港内にはバナーが所々にあって、FIFA主催の大会をやっているなどという雰囲気は若干出ていました。まずカウンターで先払いするタクシーに乗りました。1,500バーツで

高いなと感じましたが、後で聞くと高速代を入れて平均 340 バーツぐらいだそうです。リムジンは交渉すれば 1,000 バーツぐらいにはなったそうです。日本と同じ右ハンドルでした。

次に、泊ったホテルについてです。ツインタワーといってよく日本人が使うホテルです。

10月30日(大会2日前)着で入ったのですが、「引き換えを済ませれば後の段取りがうまくいくな」と思い引換所に行きました。引き換え証をプリントして300枚持っていったのですが、「開催日の10日前を過ぎているのでチケットは現地に送りました」と言われました。タイ人のアシスタントに何度も交渉してもらいましたが、結局ダメで、会場でもらってくれとのことでした。ニミブット会場を見に行きました。飾り付けなんかもしてありましたが、グッズ販売店はまだ準備されていませんでした。

次に、いよいよ最初のブラジル戦を見に行きました。11月1日、76人のツアー客を連れて行きました。260kmの道のりでした。ホテル13:00出発17:30着でした。

チケットの引き換えに行きました。チケットは用意されていましたが、ブースの店員が自分でチェックを始めたため「これは間に合わない」と思い、今日の日だけでも先に下さいとお願いしました。しかし渡してくれませんでした。結局キックオフぎりぎりになってしまいましたが、一応チケットはお客様に全部渡すことが出来ました。この時はまだ会場が変更になるとは思っていませんでした。

セキュリティーはぴっと音は鳴っていましたが、実質何も調べていませんでした。通るときに手にスタンプを押され、会場の出入りは自由に出来る状態でした。

コラートチャッチャイホールはフットサル場としては良い会場でした。一試合目はリビア vs ポルトガルの試合でしたが、お客さんはあまり入っていませんでした。二試合目が日本の試合で、ウルTRAS(サポーター)が少しいました。風船を持って応援をしていました。ゴール裏に陣取っていました。オフィシャル席はバックスタンド側にありました。

ブラジル戦は前半0-1、後半1-3で負けました。実力差ははっきりしていましたが、大量点を取られなくてよかったという内容でした。観戦後コラートのホテルに戻りました。翌日、コラートからバンコクに戻りました。

11月2日、3日、他会場の試合を見に行きました。フアマークスタジアムに行きました。スペイン対イランの試合がありましたが、客の数は少なかったです。結果は引き分けでした。その後開幕前に行ったニミブットの会場に行きました。ここが一番古いスタジアムです。グアテマラ vs コロンビアの試合をやっていました。

日本の2試合目はポルトガル戦でした。78名のツアー客で行きました。選手の家族もいましたし、カズを応援する人もいました。一時間前から開場でキックオフが近づくにつれてお客が増えていきました。ウルTRASのメンバーが音頭をとって、日本人サポーターがまとまって応援していました。

かなりの緊張感が漂う中で試合が始まりましたが、立て続けに2点取られてしまいました。この後も点を取られてしまいました。試合中に高橋選手が相手の肘が目に入り、次の試合はドクターの許可は出ましたが、半分見えない状態であったと聞いています。

後半は監督のミゲルがベンチで動き、残り8分からパワープレー(5人で攻める)に出ました。8分前から始めるというのは非常に早いタイミングであり、どうなるか興味深く見ていましたが、なんと1分たないうちに2点取りました。結局、残り4分で5-5の同点に追い付きました。

この後どうするか見ものでした。パワープレーは続けましたが、積極的にゴールを奪うためのパワープレーではなく、時間稼ぎのパワープレーという選択をしました。残り1分でポルトガルのファウルが5個になりました。ファウルが6個になればペナルティキックが与えられますので、仕掛ければ面白いと思って見ていましたが、ミゲルはそこまでのリスクは負わずに時間をつぶして終わりました。勝ち点1がとれるとは思っていませんでしたので、見ているほうも盛り上がりました。そのあと、リビア vs ブラジルが行われブラジルが圧倒して13-0で勝ちました。

最後にリビア戦です。3試合目まで残ったツアー客は20人ぐらいでした。日本のサポーターも少なかったですが、「タイと日本は友達だから一緒にベスト16へ行こう」という横断幕が作られていました。見に来ているタイ人を味方につけようということだったようです。

なかなか点がとれませんでした。先に1点を取りました。その後、1点取り返されて引き分けて前半を終えました。ポゼッションでは上回っていましたが、なぜか点がとれませんでした。結果は4-1で勝ちました。7点差で勝っていれば2位抜けが確定していましたが、そこまではとれませんでした。そのあとタイの試合があり、タイが負けたため、日本の3位抜けが決定し、ベスト16に入ることが出来ました。

これで日本の3試合が終了です。

11日が日本の試合で、12日はブラジルの試合を見ました。ベスト16の試合は勝ちあがることを予想していた人が少なかったためツアー客の人数が少なかったです。

日本の3試合が終わった後、一度日本に戻ってサッカーのオマーン戦を見に行きました。日本→オマーン→ドバイ（経由）→（バンコク）という日程で準決勝に戻りました。ここまで来るとチケットの安売りも始まっていました。スペイン vs イタリアはスペイン、ブラジル vs コロンビアはブラジルが勝利し決勝はスペイン vs イタリアとなりました。

いよいよ決勝です。決勝は24人で見に行きました。チケットは完売、グッズは30%オフでした。ブラッターは3決から来ていました。イタリアが勝ちました。

ブラジルはエースのファルカンがスタメンで出てきました。ブラジルが先制しましたが、スペインが残り10分で追い付きすぐに逆転しました。このあとブラジルがなかなか点を取れず苦戦していましたが、ファルカンが同点ゴールを入れました。5分の延長戦に入り、残り時間19秒でブラジルが勝ち越し、試合が終わりました。スペインが勝ってもおかしくない展開でしたがファルカンのゴールでブラジルが勢いづいたという展開でした。

表彰に入りましたが、今回はメダルがありませんでした。4チームかけていると時間がかかるので省略したのかもしれませんが。

以上がワールドカップの試合でした。

途中でオマーンに行ったとお話ししましたが、その時の話です。（スライドを見ながらの話）

オマーン編

オマーンはタイと同様約32℃ありました。オマーンの空港に到着し、タラップから歩いて行きました。ビザに関して、『地球の歩き方』や大使館の情報に誤りがあったので、大使館情報を正確に出して欲しいなと思いました。タクシーは左ハンドルでトヨタの車でした。トヨタの車は非常に良かったです。オマーンは海に近いので岩場も多くてその中を道路が走っています。中東らしい白い建物もあります。

オマーンの試合のチケットは2オマーンリアルでした。前回の予選の時は10オマーンリアルです。2オマーンリアルは500円くらいです。オマーン協会は安く売って観客を動員させるように頑張ったみたいですが。しかし、売り場がガソリンスタンドだったり、喫茶店・コーヒーショップだったり、ドーナツショップだったりして結局あまり売れなかったようです。

試合の日は車で移動する人が多く道が非常に渋滞しました。オマーン人はフレンドリーで好感が持てました。

これがスルタンカーブス・スタジアムです。国立競技場のようにメインスタンドの一部だけ屋根があります。会場ではオマーンのサポーターが騒いでいました。

日本のサポーター席は、メインスタンドのすぐ右横に出来ていました。ここはあまり陽があたりません。気温が 30℃ぐらいで湿度が 40%ぐらいです。風がくるのですごく涼しく、見ている方としては楽でした。ピッチ上は直射日光で 30℃でした。オマーン側のスタンドは暑いのだろうと思いながら見ていました。試合開始に近づくにつれてだんだん人が増えてきました。最終的にはあとから動員をかけた人たち（チケットをもらった人たち）も入ってきて、立ち見が出るくらいでした。

オマーン側のスタンドではオマーンの旗を広げようとしている様子が見られました。しかし、上手く旗が広げられず、結局旗だけ移動して行って回収でした。これは見ていて面白かったです。

いよいよ日本の試合が始まりました。みなさんは試合を見ていると思いますが、前半で一点取りました。

ハーフタイムぐらいには人が増えてきて壁をよじ登っている人たちも見られました。とてもイルカに見えないようなイルカのマスコットもいました。

キックオフは午後 3:30（現地時間：以下はすべて現地時間）でした。多くの人は、おそらく日本のスポンサーに合わせたと推測していました。しかし、この試合以前（6月と9月）に2試合やっていて、その時はキックオフが5時でした。3:30キックオフだと現地の人たちも暑いだろうと思いません。しかし、6月と9月は5時キックオフで、今回の11月の試合は3:30でした。おそらくスタジアムの照明の明るさが AFC の規定に合っていなかったことが原因だと思います。3:30にキックオフ、5:30終了にすることで、日が暮れる前に試合を終わらせることを意図していたと推測できます。6月と9月は日が暮れるのがもっと遅いため5時キックオフにしたのではないかと思います。

芝は悪くないのですが、下が結構デコボコしていてボールの方向が変わったり、弾んだりしていました。

77分にオマーンが同点に追いついたシーンは、オマーンサイドが一番歓喜した場面です。歓声が地鳴りのように響き、その声に圧倒されました。

その12分後、89分に日本が点を決めました。私は気分がよかったです。会場はさすがにシーンとしていました。ちなみに4分間ロスタイムありましたが、試合終了時にはほとんど人がいない状態でした。中東の人はあきらめが早いようです。

試合後に飲み会をしました。日本の試合は11月14日で、11月15日はイスラムの新年です。つまり試合の日は、日本で言う大晦日にあたります。前日の予約時は飲酒可だったのですが、日が明けて14日の朝になったら宗教令が出て、午後6時以降はお酒が飲めないということになりました。結局祝杯があげられず、ノンアルコールビールで乾杯しました。

14日が半分ホリデーみたいになった関係で、スルタン・カブス・グラウンド・モスクに翌日入れることになりました。ここには滅多に入れないのですが、異教徒でも入れることになりました。

これが一枚の絨毯（じゅうたん）です。シャンデリアもあります。イランとかのイスラムの寺院と違ってシャンデリアがすごく豪華でした。お説教をする場所はエアコンが入っていて相当ハイテクでした。海も綺麗でした。砂漠と岩と海があるという立地でした。

私の発表は以上になります。どうもありがとうございました。

IV. ディスカッション②

中塚：ありがとうございました。残り時間は自由に質疑応答に移ります。僕からまず一つ。今回の試合会場は普段どういうことに使っているのですか？ フットサルアリーナとおっしゃっていた結局完成しなかったスタジアムはフットサルがメインだと思うのですが、他はどうですか？

A さん：フットサルアリーナは、今は全然違う名前になっています。

B さん：たぶん 1998 年のタイのバンコクのアジア大会でセパタクローやバドミントンで使用しました。

徳田：おそらくファーマークスタジアムは照明が丸い形をしていたので格闘技などに使われたのではないのでしょうか。そこに無理矢理フットサルコートを引きいているので、ゴール前の照度が不足、ムラになっていて暗かったです。

中塚：タイの人たちにとってフットサルはそんなにおなじみではないのですか？

徳田：フットサルリーグはあります。有名なチョンブリ FC はサッカーもやっています。チョンブリ FC のホームはナショナルスタジアムでニミブットの横のスタジアムです。チョンブリのフットサルチームは試合をニミブットで行っています。

C さん：タイはアジアで 2 位ですよ？

徳田：そうです。イランにも勝っています。神戸に一人タイの選手が入りましたね。神戸の監督がいましてました。

C さん：フットサル場はたくさんあります。人工芝のフットサル場です。一時間 2,000 円ぐらいです。

徳田：フットサルコートは高架下にもあります。結構汚くて、これボール転がるのかなと思いました。

C さん：タイには結構スクールがあります。日本人の現地駐在員用にスクールがあって、僕が調べたときには 3 個ぐらいありました。結構日本のスクール業者が入っていますね。

徳田：日本人が多いですからね。

C さん：吉野屋とかもあるしね。

中塚：タイで足を使うスポーツと言ったらキックボクシングやセパタクローが思い浮かびます。去年うちの体育の授業でセパタクローをやりました。そのときに日本セパタクロー協会の事務局長が色々アドバイスしてくれました。その方によると、日本のセパタクロー選手はタイに武者修行に行くようです。その映像も見せてもらいました。現地の人々がセパタクローをやっていて、そこに日本代表 3 人衆が飛び入り参加でやっている映像です。今回の写真を見た限りではセパタクローコートは無かったと思いますがその辺りはどうでしたか？

徳田：フットサルコートの横にセパタクローやっている人がいました。真っ暗な中フットサルをやっている横でセパタクローが行われる光景は何回か見ました。

D さん：日本以外のサポーターはどの国の人が多かったですか？

徳田：タイ以外でサポーターが来ていたと感じたのは、ブラジルだけでした。あとはたぶん現地にい

る人だと思います。タイ人が他国のユニフォームを着て応援している姿も見ました。

中塚：日本のサポーターは多かった方なのですかね？

徳田：1 試合目、2 試合目は圧倒的に多かったと思います。

中塚：テレビを見る限りカズの応援をしている人が多かったように見えました。

C さん：運営面から考えるとブラジルや日本の試合をバンコクでやらなかったのは不思議です。

徳田：ブラジルはベスト 16 まではコラートでした。なんにもないところです。距離はバンコクから約 260km です。行って泊まりっぱなしでも良かったのですが、バンコクでやっている他の試合も見なかったので行ったり来たりを繰り返していました。電車だと 6 時間かかります。子どもが犬に噛まれたときに「後から追いかけますよ」と言ったら「無理無理」と言われたぐらいです。

森：スポーツプロモーションのことを聞きたいのですが、現地でのメディアの取り上げ方についてどういう印象を持たれましたか？

徳田：会場じゃなくて媒体ですか？

森：はい。テレビとか、ニューズペーパーとかでフットサルワールドカップはどういった扱いでしたか？

徳田：テレビは僕は一回しか中継をやっているところを見ていません。あとはあまり出てこなかったと思います。帰ってホテルのテレビで、日本の NHK で流しているダイジェストを見ていたという状況です。普通海外では映らないと思うのですが映っていました。日本シリーズもやっていて不思議だなと思って見ていました。

竹内：今回カズが参加しました。カズが参加したことによってフットサルの競技自体の代表の扱いというのはどうなのかなと思いました。代表がトップオブトップの選手の集まりでは無くなってしまったのではないかなと思いました。サッカーの上手い人を集めて代表を作った方が勝っていけるのではないかなとも推測できます。その辺のプライドみたいなものはフットサルにはないのかなと思いました。

徳田：どうですかね。

竹内：盛り上げるっていう意味ではすごく有効だと思います。だけど「代表」ということに関してはやはり競技スポーツの一番上手い人が集まってくることが大事だと思います。そうでは無くなってしまふ危険性があるのではないのでしょうか。

徳田：カズが入ることによって、興ざめすることを当初は懸念していました。F リーグが始まって 5 年がたちます。F リーグをずっと見てきている人達は思うのだろうとは考えていました。カズも自分の役割が分かって入っているので自分を使えとは言わないし、ミゲルも分かっていて使っていました。例えば、パワープレイになったら、カズは一切出てきません。選手を休ませる時に出て

くる印象でした。おそらく1試合で5分もカズは出ていないと思います。カズも分かっているし、監督も分かっているし、他の選手も分かっている。外された選手もいましたが、そこを上手く調整しながら頑張ったっていうのが今回だったと思います。これが続くかどうかは分かりません。もう一つ、先ほどのサッカーの上手い人を入れたらどうなるのかという話しですが、おそらく商売的に成り立たないのもあるだろうし、プレーが全然違うので上のレベルに行ったら即席じゃ勝てないと思います。カズが入ったことによってマスコミの取り上げ方も違うし、新聞にも必ずカズが出てきました。それはどうなのかと違和感も持ちますが、カズがいなかったら一面記事にはならないと思います。

E-さん笠野：僕も日本でずっと試合を見ていまましたが、フットサル界が「普及」ということを意識していたと思います。最近の新聞記事を見ると、カズが入ったことによって外された選手の記事が載っていましたが、すごくポジティブな意見で、「僕に力があれば選ばれていたのがカズさんを恨む気持ちはない」と書かれていました。「フットサルを広めてくれて、感謝する気持ちが大きい」とも言っていました。今回、はフットサル界全体として「フットサルを普及したい」→そという意識が強かったのかなと思いました。

中塚：ありがとうございました。じゃあその辺りの話はこの後にやりましょう。今年度の月例会のテーマはフットサルでした。その世界最高峰の舞台に我々の仲間が見に行き報告してくれました。徳田さんは、今年度EUROの報告もしてくれました。我々に新しい知識を与えてくれました。どうもありがとうございました。

以上